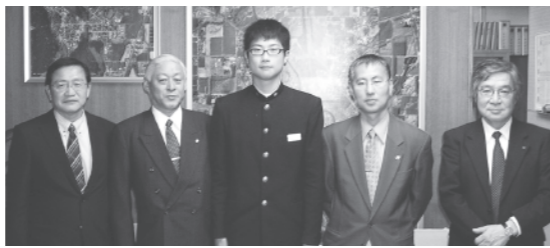


西田健修君(弟子屈陸上少年団)が 砲丸投げで準優勝



左から吉田亨弟子屈中学校長、徳永町長、西田君、黒萩徳樹監督、小林教育長

■第42回ジュニアオリンピック 陸上競技大会

10月28日から横浜市日産スタジアムで行われた第42回ジュニアオリンピック陸上競技大会の砲丸投げで西田健修君(弟子屈中学校2年)が、全国準優勝という快挙を成し遂げました。

西田君は大会の4投目まではダンツのトップでしたが、優勝した兵庫県の選手に5投目で逆転され、わずかに0.88mの差で惜しくも準優勝となりました。西田君は今年度の砲丸投げ全道ランキング1位。小学生のときから全国的にも注目され、今後の大会でも活躍が期待されます。

11月22日に役場を訪れた西田君は「途中でトップでいけると思っていた。来年は優勝目指して頑張りたい」と今後の目標を語ってくれました。報告を受けた徳永町長は「来年につなげる大会になったと思う、これからも頑張ってもらいたい」と激励しました。

てしかが観光塾に全国から39人 てしかがえこまち推進協議会



基調講演を行う北大の石森教授

てしかがえこまち推進協議会(会長・徳永町長 主催)の平成23年度てしかが観光塾が、11月11～13日の3日間の日程で川湯ふるさと館を会場に開かれました。

今回で4回目を迎える観光塾は、観光関係者の連携や地域の観光をマネジメントできるキーマンの育成を目指したもので、各地で活躍されている講師からさまざまなレクチャーを受けました。

今回は、遠くは和歌山県など全国各地から応募した観光振興や観光まちづくりに意欲が高い39人が参加。11日の開講式では、主催者であり塾長の徳永会長からの激励の言葉が贈られました。基調講演では、北海道大学観光学高等研究センター長の石森秀三教授が「北海道観光の未来を拓(ひ

ら)く人づくり」と題して講演し、深刻な地域の疲弊(ひへい)に対する観光を核にした地域活性化の有効性や、北海道や本町のポテンシャルの高さについて話しました。

続いて副塾長の山田桂郎さんが「日本の観光の現状」というテーマで講演。先例などを紹介しながら、日本の観光は「数」ではなく「収益」を目指すべきであると話しました。

2日目は、山田さんが「選ばれる地域、観光の仕組み」と題して講義を行ったほか、全国的に注目を集めている㈱ツリーズでしかが代表取締役の白石悠浩さんが「弟子屈町で着地型旅行を担う事業体」と題して、本町の取り組みを事例発表しました。

午後からは特別公開セミナーとして、北海道運輸局企画観光部の井上健二部長が「着地型観光と地域づくり、地域経営」と題して講演を行った後、同じテーマでトークセッションが行われ、一般参加も加わり約60人が講師らの意見に耳を傾けました。セッションは山田さんをファシリテーター、徳永塾長と井上部長、和歌山大学観光学部の出口竜也教授、竹林浩志准教授の4人をパネラーとして行われました。徳永

塾長は「さまざまな外部の皆さんのご協力を得ながら、えこまちを中心として住民がどう協力するかが大切」と述べ、井上部長も「志の強い塾生たちで地域を越えたネットワークをつくり、情報交換したり悩み事を相談したり、活用するのが大事だ」と話しました。出口教授は「地域づくりの阻害要因はエゴと利害。これらを超えたとこ

ろで取り組まなければならない。この塾は産官学の取り組みで非常に素晴らしい。今後も継続した開催をお願いしたい」と話し、竹林准教授は「地域の魅力を創出して他地域との差別化を図り、自立的な観光地を目指してほしい。えこまちは凄い」と話しました。山田さんは「観光地域づくりは楽しいもの」といった気運を高め、仲間づくりもと締めくくりました。

3日目はグループに分かれてのワークショップが行われ、グループごとに「地域の戦略づくり」に取り組みました。

塾の締めくくりとして、ベス

トセラ「デフレの正体」の著者で、㈱日本政策投資銀行地域振興グループ参事役の藻谷浩介さんが「被災後の日本と地域が発展していくエコツーリズムの考え方について、より理解を深めよう」といったもの。今回はカリキュラムごとに受講が選択できる仕組みとし、

てしかがえこまち推進協議会主催の「てしかがエコツーリズムフォーラム」が、川湯ふるさと館で10月18～20日の全3日間の日程で開かれ、町内の関係者約40人が参加しました。

フォーラムは、地域資源を行かしながら活用することで、持続的に地域が発展していくエコツーリズムの考え方について、より理解を深めようといったもの。今回はカリキュラムごとに受講が



フォーラムの様子

域のあり方、そして観光の役割は」といったテーマで講演。日本の人口減少や本町の人口減少の実態をデータで示しながら、被災後の観光の取り組みや地域の高付加価値で高単価な

を提言しました。

閉講式では、9人の学生が参加した和歌山大学観光学部の炭田晃希さんが山田副塾長から修了証を受け取り、3日間の塾が閉講しました。

受講者が受講しやすいフォーラムとなりました。

講習会は昨年引き継ぎ、NPO法人日本エコツーリズム協会(愛知和男会長)の協力を受け、山田桂郎さん(JTIC.S.W.I.S.S代表)、金子タカシさん(自然ガイド・ソルマル代表)、松田光輝さん(知床ネイチャー・オフィス代表取締役)、楠部真也さん(㈱ピッキオ取締役)、細谷誠さん(㈱スポーツピア)といった、国内ではトップレベルの講師が集まりました。

座学が中心の講習会ですが、大変内容の濃い3日間となりました。

主催者の事務局では「エコツーリズムの推進には『環境』と『観光』地域が一体となって取り組んでいく必要があります。そのような取り組みが可能な地域社会の仕組みづくりを進めたい」と話し、今後の継続した事業に期待を込めていました。

地域資源を活用したエコツーリズムを推進 てしかがエコツーリズムフォーラム

てしかがエコまち推進協議会主催の「てしかがエコツーリズムフォーラム」が、川湯ふるさと館で10月18～20日の全3日間の日程で開かれ、町内の関係者約40人が参加しました。

フォーラムは、地域資源を行かしながら活用することで、持続的に地域が発展していくエコツーリズムの考え方について、より理解を深めようといったもの。今回はカリキュラムごとに受講が

■第9回摩周杯ソフトバレー ボール大会



準優勝に輝いたドリーム摩周

11月13日、摩周観光文化センターで行われました。大会には、道東一円から21チーム総勢100人が参加。熱戦が繰り広げられました。結果は次の通りです。

▼1位/G E T W I N B(釧路市)
▼2位/ドリーム摩周(弟子屈町)
▼3位/G O G O(弟子屈町)

■町民卓球大会兼第14回会長 杯争奪クラブ対抗親睦大会



卓球で心地よい汗

日、摩周観光文化センターで開催されました。例年より1ヵ月早い開催となりましたが、釧路、網走、根室管内から14チーム60人が参加し、心地よい汗を流しました。結果は次のとおりです。(敬称略)

▼一般男子の部/1位 林哲平・2位 福永恭平
▼一般女子・小学生男子の部/1位 金須渚・2位 藤田佑大・3位 坂上聖悟

■スケート場情報!

町営スピードスケート場は、12月20日(火)のオープンを目指して準備を進めています。気象状況によりオープン日が変わることもありますので、ご利用前にはあらかじめ、お問い合わせください。

□問い合わせ先/町教育委員会 社会教育課体育振興係 ☎482・2948(課直通)まで。

■スケート教室開催

▼主催/町教育委員会
▼日時/1月8日(日)・9日(月)の2日間、いずれも13時～15時
▼場所/町スピードスケート場
▼講師/守屋結香さん ほか
▼参加料/無料
▼申し込み締め切り/1月6日(金)
□申し込み・問い合わせ先/町教育委員会 社会教育課体育振興係 ☎482・2948(課直通)まで。

■各地でニュースポーツ



キンボールを楽しむ参加者

「みんなのスポーツ」が、5会場で行われました。

参加者は町体育指導委員の指導のもとニュースポーツに挑戦。3世代スポーツを通して世代間の交流を図り、普段親しむことの少ないキンボールなどを楽しんでいました。

■歩くスキーを お譲りください

弟子屈高校野球部では、冬のトレーニングの一環として歩くスキーを予定しており、歩くスキーを集めています。お譲りいただける場合には、ご連絡ください。

□問い合わせ先/須藤 ☎482・5449まで。



前回のスケート教室の様子